

2015年版中小企業白書について

今回の中小企業白書は、下記の3部から構成されておりますが、このたびは、第2部の「中小企業・小企業者のさらなる飛躍」をまとめ掲載します。

第1部 2014年度の中小企業・小規模事業者(注)の動向

第2部 中小企業・小規模事業者のさらなる飛躍

第3部 「地域」を考える 一自らの変化と特性に向き合うー

イノベーション

「イノベーション活動」は、比較的規模が大きく、広域に事業を行う者の取組という印象が一般的には強い。

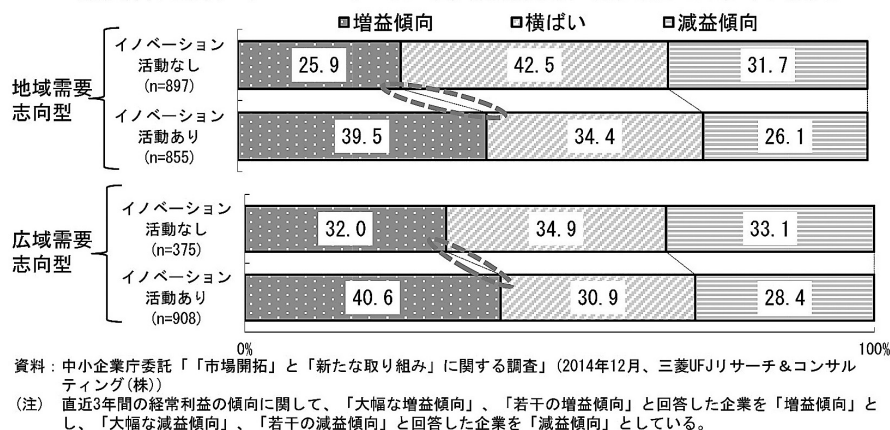
中小企業を、地域需要志向型、広域需要志向型の別にイノベーション実現に向けた活動状況を見てみると、広域需要志向型企业の方が積極的に取り組んでいる。

今後最も力を入れたい市場を「同一市町村」、「同一都道府県」とする企業を地域需要志向型とし、「全国」、「海外」とする企業を「広域需要志向型」とする。

具体的な取組内容を規模別に見てみると、中規模企業は小規模企業と比較して、「部署を越えた協働」や「中途採用による新しい空気を取り込み」等、組織や人材を活性化させる取組が活発に行われている。

また、需要志向別に見ると、広域で事業を営んでいる企業ほど、市場での差別化取組を活発に行っている様子が見えてくる。

需要志向別、イノベーション活動状況別に見た経常利益の傾向



イノベーションの成果と課題

地域需要志向型であっても、イノベーションの実現に向けた活動に取り組んでいる企業は、取り組んでいない企業に比べて利益を伸ばしている傾向にある。地域需要を志向する企業も、イノベーション活動に取り組み、生産性を向上させ、収益力を高めることに、積極的に取り組んでいくべきと考えられる。

イノベーションに取り組む際の課題を見てみると、「取組の必要性の見極めが難しい」、「事業化の時期の見極めが難しい」など、必要性やタイミングの見極めを課題としている者が多いが、規模別に見てみると、中規模企業は「人材」に関する課題、小規模事業者は「資金」に関する課題を挙げる者が多い。